



応用物理って？

応用物理学とは、物理学をベースに、理学と工学の境界領域をカバーするきわめて広い分野を対象とした技術・学問領域です。高温超伝導や青色発光ダイオードなどの近年の重要な成果は、応用物理学会を中心としたコミュニティから生まれました。

会員構成

会員数は約23,000名。会員の所属は約50%が企業、約30%が大学、約7%が公立研等であり、企業の技術者・研究者の比率が高い点が特徴です。毎年、春季・秋季学術講演会を開催し、延べ8,000件の講演が行われ、約15,000名の会員参加があります。

人材育成・男女共同参画委員会の活動

設置の経緯

- 2001年2月に男女共同参画ネットワーク準備委員会発足。
- 2001年7月に男女共同参画委員会設置。
- 2006年3月に「人材育成・男女共同参画委員会」へ委員会名を発展的改称。

2006年度の活動方針

この4年半にわたる活動によって明らかになったのは、女性研究者・技術者の問題にとどまらず、若手のポストク問題、さらには今後著しいスピードで進む高齢化社会の問題などでした。少子高齢化が今後進むであろう日本の状況を考えると、次代の研究開発をになう研究者・技術者育成を行うとともに、ポストク問題、シニア研究者の能力の活用にも取り組んでいく必要があります。例えば、各界で活躍されているシニア研究者・技術者と若手研究者・技術者の交流の場を提供できれば、シニアから若手への「知の伝承」も可能となるでしょう。このような背景から、本年3月に委員会名を「**人材育成・男女共同参画委員会**」に改称し、男女共同参画、学生・若手、シニアの三つの部門を軸に活動を行っていくことになりました。

応用物理学会での男女共同参画の進捗状況

今年度、初の女性副会長(小館副会長)が誕生しました。尾浦会長は、全ての委員会に女性に入っていたきたいと理事会で表明され、各委員会での女性委員の数も増えています。また、2005年度より講演会時の女性座長数の増大にも取り組んでいます。

今年度の体制及び各部門の主な活動内容は以下の通りです。

- 委員長** 小館香椎子(日本女子大) **副委員長** 竹内淳(早大)
- 男女共同参画部門 (幹事長:大橋良子(慶応大) 副幹事長:筑本知子(ISTEC))**
 - 応物学会アンケートの詳細分析から現状把握と要望のくみ上げ
 - ワーク/ライフバランス実現に向けて、情報提供のためのネットワークの構築
 - 女子学生と様々な分野の研究者との交流の促進
 - 学生・若手部門 (幹事長:近藤高志(東大) 副幹事長:中村淳(電通大))**
 - 学生・ポストク等若手研究者・技術者のネットワーク支援
 - ポストク・博士課程修了者のキャリア支援
 - 若手のワーク/ライフバランスの推進
 - 小中高生・大学生の理工系、特に応用物理系へのチャレンジ支援など具体的な活動
 - シニア部門 (幹事長:遠山嘉一(日本女子大) 副幹事長:神谷武志(大学評価・学位授与機構))**
 - シニアからの知識継承のためのネットワーク構築
 - 有識者・経験者としてのシニアの活躍の場の提供
 - シニア対象のリフレッシュ講座など

委員: 雨宮 千夏(NECラミオンエナジー)・新井 豊子(筑波大)・安藤 寿浩(物質・材料研究機構)・石川 貴久枝(ソニー(株))・大塚 由紀子(東大)・奥和田 久美(文部科学省科学技術政策研究所)・金田 千穂子((株)富士通研究所)・蒲生西谷 美香(東洋大)・坂野井 和代(駒沢大)・佐川 みすず(NEDO)・清水 賀代(日女大)・庄司 一郎(中央大)・瀬川 倫子(日本電信電話(株))・玉田 薫(東工大)・張 利((株)東芝)・津村 徳道(千葉大)・根本 香絵(国立情報学研究所)・藤井藤井 俊夫((株)富士通)・藤平 景子((株)三菱電機)・宮本 ゆき((株)TDK)・安田 哲二(産業技術総合研究所)・吉崎 和泉(JAXA)

2006年の活動の記録

- シンポジウム「研究開発環境の多様性と評価—企業における現状とその課題—」の開催(2006春季講演会)
- インフォーマルミーティング「博士『後』のキャリアを考える」の開催(2006秋季講演会)
- 「人材育成・男女共同参画委員会シニア部会インフォーマルミーティング」の開催(2006秋季講演会)
- 「親子で楽しむ科学教室 第1回 光の不思議」の開催(2006年春季講演会)
- 学術講演会時の託児室設置座長に対する託児室利用料補助制度の開始(2006秋季講演会～)



2006年春 シンポジウム
ポスター



2006年春 親子科学教室
ポスター



2006年秋 インフォーマルミーティング
ポスター



2006年秋 インフォーマルミーティング
ポスター